

【別紙様式 I】 令和7年度 学校評価報告書

学校名 厚木市立荻野中学校

厚木市教育委員会の基本目標

- 1 自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成【挑戦】
- 2 自他の命や豊かな感性を大切に、多様性を認めながら共に生きていく力の育成【共生】
- 3 変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してより良い社会を創る力の育成【創造】

校長名 土屋 暁子

学校教育目標

学校経営の方針

「豊かな心」「たくましい心身」「正しい判断力」を持ち
自らの生き方を拓く生徒の育成

・「人権教育」の視点に立った教育活動の推進
・持続可能な社会の実現をめざす教育活動の工夫

今年度の重点目標

・全職員による協働体制 ・思いやりの心の育成 ・確かな学力の向上 ・安心安全な環境づくり ・未来を拓く力の伸長 ・開かれた学校づくり

| 評価項目・指標等 | 基本目標との関連 | 具体的な取組 | 成果と課題 | 次年度への具体的な改善策 |
|--------------|----------|---|---|---|
| 「心の教育」に関わる取組 | 2・3 | <ul style="list-style-type: none"> ・校内生徒指導会議(週1回) ・校内教育支援会議(週1回) ・教育相談週間の設定 ・スクールカウンセラー、こころスマイル支援員、学校生活支援員との連携 ・関係機関及び医療との連携 ・SCIによる1年生への全員面談 ・ミニケース会議 ・保護者との連携 ・生活アンケートの実施 ・人権週間への取組 | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導担当及び教育相談コーディネーターを核とすることで、組織的な体制を整えることができた。 ・校内教育支援センターの運営の工夫が、不登校生徒や集団に入りづらい生徒の居場所づくりにつながった。 ・スクールカウンセラーによる1年生への全員面談は、生徒の見取りや支援の手立てに大いに参考になった。 ・医療や関係機関と積極的に連携を図ることは、生徒の指導や支援の大きな一助となった。 ・生徒アンケート「いじめや差別がない雰囲気か」という項目に対して2割の生徒が否定的な回答をしている現状を真摯に受け止め、いじめ根絶に向けて学校として取り組んでいかなければならない。 | <ul style="list-style-type: none"> ・日頃からのこまめな声かけや個別相談を通して生徒とのコミュニケーションを深め、生徒の変容を見逃さない環境づくりを進める。 ・校内教育支援センターに関わる教職員同士の連携を密にし、共通理解のもとで運営を進めていく。 ・いじめ防止対策については、教職員で再度確認をするとともに、生徒の委員会等の活動にも取り入れ、学校としての意識を高めていく。 |
| 「学習指導」に関わる取組 | 1・2 | <ul style="list-style-type: none"> ・分かりやすい授業の工夫 ・「学びあい」を取り入れた授業の推進 ・将来を見据えた学習(1学年「わくわく調べ」・2学年「職業講話」への取組 | <ul style="list-style-type: none"> ・教科部会や年次研修の研究授業を教員相互の学びの場とし、授業改善に努めた。 ・2、3学年英語と3学年数学で少人数授業を取り入れ、より丁寧な指導を心がけた。 ・話し合い活動やGIGAスクール端末を利用した意見交換などを授業に積極的に取り入れ、自己表現力や受容力の育成につなげた。 ・学カステップアップ支援員に1年生の数学、英語の授業補助や昼休みの学習補助、個別の学習支援を依頼し、学力の定着を目指している。 ・総合的な学習の時間においては、興味関心を職業観につなげる授業をさらに工夫する必要がある。 ・生徒アンケート「授業はわかりやすいか」の項目は8割強の生徒が肯定的な回答をしているが、全国学力・学習状況調査の結果を見ると、基礎学力の定着については課題が残る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・教員間の授業研究の機会を設定する。 ・少人数授業や個別の学習支援を、可能な範囲で継続させる。 ・GIGAスクール端末を利用した家庭学習への指導を工夫する。 ・職業講話については、地域の人材の力も借りて、幅広い職業観を持てるような工夫を行う。 |

| | | | | |
|----------------|-------|---|---|---|
| 「保健安全教育」に関わる取組 | 2・3 | <ul style="list-style-type: none"> ・健康観察 ・避難訓練や集団下校訓練の工夫改善 ・栄養教諭による食育授業の実施 ・毎日の清掃活動 ・チリリタイムの実施 ・定期的な設備の安全点検 | <ul style="list-style-type: none"> ・朝の健康観察や学級活動での健康教育を通し、生徒が自身の心身の健康について考える機会を設けた。 ・避難訓練とは別に設定したシェイクアウト訓練や教員のみ避難訓練の実施は、個々の防災(減災)意識の向上につながった。 ・学校保健委員会では、講師を招いて「避難所運営において中学生ができること」について考える機会を設けた。今後、全校で取り組めるような内容も検討していきたい。 ・清掃については、今の時代に合った進め方を、再度検討していく必要がある。 ・栄養教諭による学年別の「食育」の授業は、生徒が自身の食生活を見直すことにつながった。特に2,3年生については、前年度の学びとつなげて自分の食生活を考えることができていた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、自身の健康を考える機会を設定する。 ・生徒の防災(減災)意識を高めるような取組を工夫する。 ・栄養教諭による食育の授業を継続させるとともに、家庭科や保健体育といった他教科とのタイアップ授業も工夫する。 ・ヘルメットインフルエンサーへの取組を通して、自転車の交通安全について考えさせる時間を設ける。 |
| 「生徒の活動」に関わる取組 | 1・2・3 | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動の充実 ・所属感を持てる学級活動の指導の工夫 ・校内ボランティア活動の活性化と地域とつながる場の設定 | <ul style="list-style-type: none"> ・学級活動や委員会活動を通して、望ましい人間関係を構築できるような場を設定している。 ・全校生徒も取り込んだ生徒会本部や専門委員会の活動を工夫していく必要がある。 ・今年度から、地区防災訓練や地域美化清掃に生徒の参加を促すような呼びかけを積極的に行うこととした。この取組を次年度以降も続けていくことで、地域で活躍できる生徒を増やしていく。 | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が主体的に活動できる場の設定や運営方法を工夫して、充実感や所属感を高める。 ・生徒や教職員の負担も考慮しながら、地域貢献の場を設定していく。 |

今年度の学校関係者評価委員会からの意見

- ・授業や行事を参観していただく機会を設けており、その際、生徒の活動する姿については良い評価をいただいている。
- ・地域の行事で中学生が活躍しているという声があった。
- ・学校運営協議会で学校評価の報告を行い、今年度の課題と来年度の学校経営方針にご理解をいただいた。

今年度の学校経営のまとめ ・ 次年度への改善の方針

全教職員と協働して目標をおおむね達成することができた。しかし、全生徒が安心して生活できる学校づくりのためには、まだまだやるべきことが山積している。次年度は「自己存在感が実感できること」と「共感的な人間関係を育てること」を念頭に置き、教職員が一丸となって教育活動に尽力していきたい。